







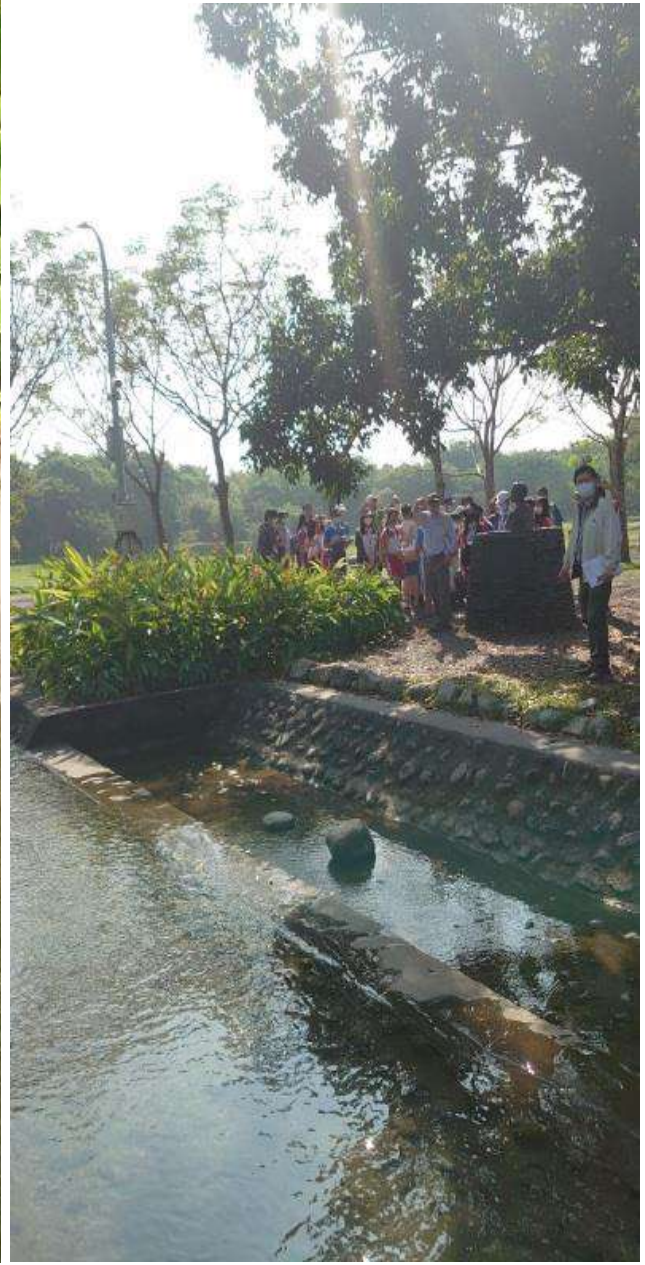
鳥居信平  
Torii Nobuhel (Japanese 1883-1946)

鳥居信平、静岡県岡智郡山梨村出身、東京帝大農科大学卒業。1914年(大正3年)、台湾屏東県にある台湾製糖株式会社(台糖会社)に就職した。原住民のパイワン族が暮らす林辺溪の上流地区へ深入り調査を行い、流域や水文を記録し、長さ328メートルにわたる「二峰圳」と呼ばれる地下ダム(地下堤堰取水工程)を建設した。地下ダムが伏流水を収集することによって、洪水時期の氾濫及び干ばつ時期の水不足の状況が改善されるようになった。連水路は全長3,436メートルあり、ダムが建設された後、雨季では出水量が毎日15万トン、乾季では7万トンにも及ぶ。台糖会社のガトウキビ湖を年間2千から3千ヘクタール灌漑することができる。

「地下堤堰取水工程」の地下ダム建設は台湾水資源開発の歴史に於け、斬新な試みにも達成した。水源開発の方法は本来の水質に拘ることを始め、生態を維持する工設計、甚大なる水量の開発、水質の清潔さ、短い開発時期、合理的な工程費用等、現代の水利工機技術にとっても及ばない部分もあった。「二峰圳」の伏流、台糖各糖会社の灌漑地域である高砂、洲林、林後、南岸、新厝等の農場にも流れつたが、稲作の生産にのみは限らなかった。

彫刻者：奇美グループ創業者 蔡文雄









とにかく驚くのが、小学生たちが日本人に感謝している。小学校の遠足は、この二峰圳（にほうせう）にほうしゅう）で、日本人の活躍を聞くそうです。鳥居信平さんが造ってくれたこの地下ダムで、現地民の人たちと、仲良く一緒に仕事をしていったことが、地元から高く評価されているそうです。そして、台湾は、豊かに暮らせている話を、ずーとしている。しかし、日本人は、誰も知らない。左の鳥は、置物でなく、野生の鳥だそうです。